大　使　館　情　報

2022 年 10 月

【目次】

1．ブラジル・マクロ経済情勢
（1）経済情勢
（2）経済政策等
（3）金融政策
（4）為替市場
（5）株式市場

2．ブラジル政治情勢（2022 年 9 月の出来事）
【内政】
（1）独立記念日の市民・軍事パレード
（2）ウェベル連邦最高裁判所（STF）新長官の就任式
（3）ボルソナーロ政権の支持率
（4）2022 年大統領選関連（第一回目投票の結果）

【外交】
（1）ボルソナーロ大統領の英国訪問
（2）ボルソナーロ大統領の国連総会出席
（3）フランサ外相の国連総会出席

3．トピックス
（1）林大使のパラナ州北部公式訪問（9 月 8～10 日）
（2）外務省研修生 OBOG 会ブラジリア総会の実施（9 月 16 日）
（3）ジャングル祭りの開催（9 月 23～25 日）
（4）カルロス・マグノ・カンポス・ダ・ホーシャ元 EMBRAPA 総裁への叙勲伝達式（9 月 30 日）

4．大使館からのお知らせ
（1）10 月 11 日（火）以降の日本入国時の水際措置の見直し
（2）在伯公館 SNS リンク一覧
（3）外務省海外安全ホームページ
（4）ブラジル渡航情報

１．ブラジル・マクロ経済情勢

（１） 経済情勢（9 月発表の経済指標）

（ア）7月の鉱工業生産指数は前月比+0.6%、前年同月比▲0.5%となった。

（イ）7月の小売売上高は前月比▲0.8%、前年同月比▲5.2%となった。

（ウ）8月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比▲0.36%となり、前月（▲0.68%）から減少幅は縮小したものの2か月連続の減少となった。直近12か月累計は+8.73%となり、前月（同+10.07%）から上昇幅は1.34%ポイント縮小した。

（エ）失業率（6～8月）は8.9%となり、3か月前（3～5月）の移動平均9.8%から0.9%ポイント低下。また前年同期比（2021年6～8月）の13.1%から4.2%ポイント低下した。

（オ）伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus調査）について、9月30日時点で、GDP成長率予測については、2022年は+2.70%（前週から0.03%ポイント上昇）で、2023年は+0.53%（前週から0.03%ポイント上昇）となった。インフレ率については、2022年は5.74%（前週から0.14%ポイント下落）で、2023年は5.00%（前週から変わらず）となった。

（２） 経済政策等

9 月 8 日、ボルソナーロ大統領はアウシリオブラジルの給付金額（月額）について、受給者が就労すれば 200 レアルを追加すると発言した。この場合、従来の主張通り 2023 年以降も 600 レアルの給付金額が継続されれば合計 800 レアルとなる。なお、ルーラ元大統領は 600 レアルに加え、6 歳までの子供がいる場合には 150 レアルを追加給付することを主張している。

（３） 金融政策

9 月 20 日及び 21 日に開催された伯中央銀行金融政策委員会（Copom）において、政策金利である Selic 金利を 13.75%に据え置くことが決定された。伯中銀は 2021 年 3 月から前回 2022 年 8 月まで 12 会合連続で、政策金利の引上げを実施していた。次回会合は 10 月 25 日及び 26 日に開催予定。

（４） 為替市場（レートは伯中銀の公表値から算出）

（ア）9月の為替市場は5.12～5.41レアル/ドルで推移。

（イ）月の前半は5.12～5.22レアル／ドルで推移。米国の金融政策を巡る動向や世界経済の見通しの悪化の他、ブラジル国内での物価動向についての前向きな動向等を材料に、概ね横ばいで推移した。

（ウ）月の後半は5.17～5.41レアル／ドルで推移。米国の金融政策や欧州経済を巡る動向の他、伯大統領選を巡る不確実性等を材料に概ね下落傾向で推移した。

（５） 株式市場

（ア）9月の株式市場は107,664～114,070ポイントで推移。

（イ）月の前半は109,764～113,407ポイントで推移。資源価格の動向や世界経済の動向等を材料に上下して推移した。

（ウ）月の後半は107,664～114,070ポイントで推移。世界経済の見通しの悪化等を材料に概ね下落傾向で推移した。

２．ブラジル政治情勢（9 月の出来事）

【内政】

（１）独立記念日の市民・軍事パレード

9 月 7 日、ブラジリアでは、独立 200 周年を記念して市民・軍事パレードが実施され、ボルソナーロ大統領他、各国来賓（ポルトガル、ギニア・ビサウ、カボ・ベルデの大統領）が出席。また、同日午後にも、リオデジャネイロ市コパカバーナ地区において記念式典が実施され、ボルソナーロ大統領が出席した。

（２）ウェベル連邦最高裁判所（STF）新長官の就任式

9 月 12 日、連邦最高裁判所（STF）長官の就任式が実施され、ルイス・フックス判事の後任として、ローザ・ウェベル新長官が就任した。同長官は、STF の歴史上 3 人目の女性の長官であり、任期は 2023 年 10 月までを予定。

（３）ボルソナーロ政権の支持率

9 月 29 日、Datafolha 社が公表した 9 月 27 日から 29 日にかけて、6800 人を対象に実施した世論調査の結果によれば、ボルソナーロ政権の支持率は、31%（8 月 18 日発表の調査：30%）、不支持率は 44%(8 月調査：43%）となっている。

（４）2022 年大統領選挙（第一回目投票の結果）

10 月 2 日、伯大統領選第一回目投票が実施され、ルーラ元大統領（PT）が有効得票の 48.43%、ボルソナーロ大統領（PL）が 43.20%の得票率。ルーラ元大統領の得票率は 48.43%に達するも、過半数に届かず、次点のボルソナーロ候補と 10 月 30 日に決選投票が行われることとなった。

【外交】

（１）ボルソナーロ大統領の英国訪問

9 月 18 日～19 日、ボルソナーロ大統領は、エリザベス女王陛下の葬儀に出席するために、英国を訪問。19 日には、エリザベス女王陛下の棺を弔問し、チャールズ国王主催のレセプションに出席、また、19 日午後にトラス首相主催のレセプションに参加した。

（２）ボルソナーロ大統領の国連総会出席

（ア）9 月 21 日、米国を訪問し、第 77 回国連総会に参加したボルソナーロ大統領は、一般討論演説を行った。同演説において、大統領が扱った主なトピックは、新型コロナウイルス感染症によるパンデミック、経済、食料安全保障、持続可能な開発、国連、ウクライナ紛争、宗教の自由、女性のエンパワーメント等。

（イ）国連総会のマージンにおいて、ボルソナーロ大統領は、9 月 20 日、ギリェルモ・ラソ・エクアドル大統領及びアンジェイ・ドゥダ・ポーランド大統領と会談を行った。

（３） フランサ外相の国連総会出席

（ア）第 77 回国連総会に参加したフランサ外相は、ニューヨークにて、9 月 21 日～23 日にかけギニア・ビサウ、エルサルバドル、カンボジア、ロシア、アラブ首長国連邦、セルビア、バハマ、スリナム、トルコ、サウジアラビア、イラン、ガイアナ、ベラルーシ、バーレーン、インドネシア、アンドラの各外相との会談を実施。また、IBSA 外相会談、イベロアメリカ外相会談、BRICS 外相会談、安保理改革に関する G4 外相会合外相会談にも参加した。

（イ）9 月 22 日には、第 77 回国連総会の際に、林外務大臣との間で日伯外相会談を実施。林大臣より、9 月 7 日のブラジル独立 200 周年への祝意を伝達し、現下の厳しい国際情勢の中、基本的価値を共有する「戦略的グローバル・パートナー」であるブラジルと連携していきたい旨述べるとともに、200 万人を超える日系社会を介した特別な絆も大切にしたい旨述べ、フランサ大臣から賛意が示された。両外相は、来年共に安保理非常任理事国を務める日本とブラジルが、安保理改革を含む国連全体の機能強化に関し連携していくことを確認。また、両外相は、二国間協力及び、国際場裡における協力等について議論し、5G や脱炭素に向けた取組など様々な分野における協力のあり方について議論していくことで一致。また、両外相は、核・ミサイル問題や拉致問題を始めとする北朝鮮への対応を含む地域情勢についても引き続き連携していくことを確認した。

３．トピックス

（１）林大使のパラナ州北部公式訪問（9 月 8～10 日）

9 月 8～10 日の間、林駐ブラジル日本国大使はパラナ州北部（マリンガ市、ロランジア市、ロンドリーナ市）を公式訪問した。

8 日午後はマリンガ市において、マリンガ日系団体長等と懇談した後、マリンガ日本庭園やサンフランシスコ・シャヴィエル文化社会センターを訪問した。さらに、マイア・マリンガ市長を表敬し、マリンガ市・加古川市の姉妹都市関係や経済分野、環境分野、教育分野等における今後の協力方途につき協議した。また、パラナ老人福祉

和順会を訪問し、同会による高齢者ケア施設の運営等について説明を受けた。

マリンガ日本庭園視察

サンフランシスコ・シャヴィエル文化社会センター訪問

マリンガ市長表敬

パラナ老人福祉和順会訪問

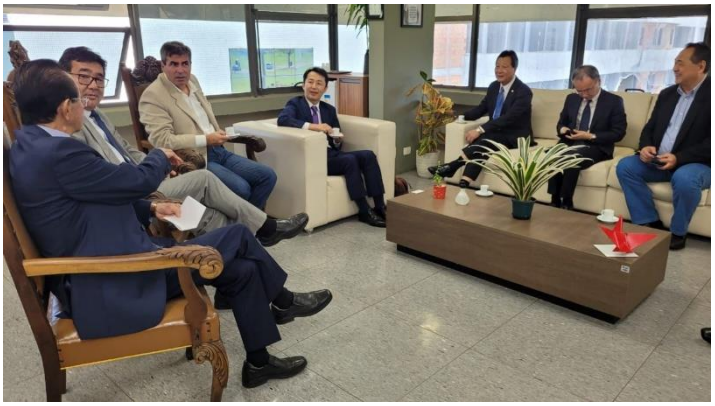
9 日はマリンガ市において、マリンガ文化体育協会（ACEMA）の体育館、プール、ゲートボール場等の同協会施設を視察し、来訪を記念して、敷地内の日本庭園に桜を植樹した。さらに、ロランジア市のパラナ日本移民センターを訪問し、パラナ日本人移民慰霊碑に献花及び黙祷し、パラナ移民史料館を視察した。また、ロンドリーナ市において、ベリナッチ・ロンドリーナ市長を表敬し、ロンドリーナ市・西宮市の姉妹都市関係や日系社会連携、経済分野、教育分野等における今後の関係強化について意見交換した。

午後はロンドリーナ市において、パラナ日伯文化連合会（ALIANÇA）を訪問し、造成予定の日本庭園について説明を受けた後、来訪を記念し、同区画内に桜を植樹した。続いて、パラナ日本語教育センター及びロンドリーナ・モデル校で実施されている日本語教育について説明を受け意見交換し、授業の様子を視察した。さらに、インテグラーダ農協を訪問し、組織沿革や事業概要等に関する説明を受け、スマート農業の取り組み等について意見交換した。また、ロンドリーナ文化体育協会（ACEL）を訪問し、同協会の運営する EXPO JAPAO 等の説明を受け、ロンドリーナ市日系社会要人と意見交換した。最後に、パラナ日伯文化連合会（ALIANÇA）主催による、林大使歓迎会に参加し、マリンガ市及びロンドリーナ市含むパラナ州北部・西部周辺市の日系人団体長等と懇談した。

マリンガ文化体育協会（ACEMA）訪問

パラナ日本移民センター訪問

パラナ日本人移民慰霊碑への献花



ロンドリーナ市長表敬

パラナ日伯文化連合会（ALIANÇA）訪問

インテグラーダ農協訪問

ロンドリーナ文化体育協会（ACEL）訪問

パラナ日伯文化連合会（ALIANCA）主催林大使歓迎会への参加

10 日はロンドリーナ市において、フォーリャ・ジ・ロンドリーナ紙本社を視察した後、同紙によるインタビューに対応し、日本とブラジルの経済関係、文化・教育協力、人的交流等に関する質問に回答した（記事 URL）。

記事 URL（1）

https://folhadelondrinadigital.pressreader.com/article/281500755093211

記事 URL（2）

https://www.folhadelondrina.com.br/geral/caso-de-homicidio-duplo-no-japao-segue-sem-solucao-3221303e.html

（２）外務省研修生 OBOG 会ブラジリア総会の実施（9 月 16 日）

9 月 16 日、在ブラジル日本大使館はブラジリアにて外務省研修生 OBOG 会（※）と共催で「ブラジリア総会」を開催した。午前は市内ホテルにて、同会の活動報告及び外務省研修生としての活動のあり方につき議論が行われ、また冒頭、林大使が挨拶を述べた。

その後、一行は大使公邸にて林大使と交流した他、市内レストランにて、「外務省研修生」らの記念誌発行セレモニーを行った。セレモニーには林大使のほか、髙野総括公使も出席し祝辞を寄せた。

※外務省研修生とは、日本外務省の招へいスキームで訪日した経験のあるブラジル人を指す。

（３）ジャングル祭りの開催（9 月 23～25 日）

9月23日～25日の間、マナウス市にて西部アマゾン日伯協会主催の「ジャングル祭り」が盛大に開催された。同イベントは北伯地域最大の日本文化紹介イベントであり、当日は多くの市民で賑わった。在マナウス総領事館もブースを出展して日本人形等の展示や日本紹介ビデオの上映を行った。開催期間中は当地やサンパウロ、パラナのアーティストによる歌謡や和太鼓の公演の他、ミス日系コンテスト、コスプレ大会や書道、生け花、漫画、剣道などの各ワークショップが開催された。さらにマナウスフリーゾーン進出日本企業もブースを出展し、各商品の紹介を行った。

多くの市民で賑わう会場

開会式で祝辞を述べる荻野総領事

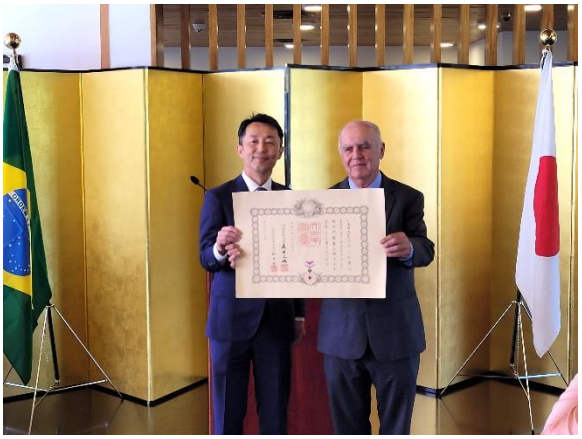
（４）カルロス・マグノ・カンポス・ダ・ホーシャ元 EMBRAPA 総裁への叙勲伝達式（9 月 30 日）

9 月 30 日、在ブラジル日本国大使公邸にて、カルロス・マグノ・カンポス・ダ・ホーシャ元 EMBRAPA 総裁への令和 4 年度春の叙勲伝達式が、ご家族、ご友人及び関係者の出席のもと開催された。叙勲伝達式では、セラード農業開発研究協力の成功に大き

く貢献されたマグノ氏に「旭日中綬章」が伝達されるとともに、今後始まる新たな日伯農業協力プロジェクトへの期待が高まった。

林大使による祝辞

マグノ氏による挨拶



叙勲授与の様子

ご家族や関係者を交えた集合写真

4. 大使館からのお知らせ

（1）10 月 11 日（火）以降の日本入国時の水際措置の見直し

10 月 11 日（火）午前 0 時（日本時間）以降適用される措置の概要は以下のとおりです。この水際措置の見直し詳細について。

1. 外国人の新規入国について、日本国内に所在する受入責任者による入国者健康確認システム（ERFS）における申請を求めないこととします。併せて、外国人観光客の入国について、パッケージツアーに限定する措置を解除されます。

2. 新型コロナウイルスへの感染が疑われる症状がある帰国者・入国者を除き、入国時検査を実施せず、入国後の自宅又は宿泊施設での待機、待機期間中のフォローアップ、公共交通機関不使用等を求めないこととなります。ただし、全ての帰国者・入国者について、世界保健機関（WHO）の緊急使用リストに掲載されているワクチンの接種証明書（3 回）又は出国前 72 時間以内に受けた検査の陰性証明書のいずれかの

提出を求めることとなります。

（２）在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNS にて文化イベントを含め最新情報等を随時更新しています（以下リンク先をご参照ください）。

在ブラジル大使館　：facebook　instagram　YouTube
在ベレン領事事務所：facebook
在マナウス総領事館：facebook
在レシフェ総領事館：facebook　instagram
在リオデジャネイロ総領事館：facebook　instagram　YouTube
在サンパウロ総領事館：facebook　YouTube
在クリチバ総領事館　：facebook　Instagram　YouTube

（３）外務省　海外安全ホームページ

（ア）各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開しています。
http://www.anzen.mofa.go.jp/

（イ）世界各国の在外邦人に対して最低限必要な安全対策を周知することを目的にした「ゴルゴ１３の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を公開しています。2021 年 3 月、新型コロナウイルス感染症の感染症とテロといった複合的なリスクへの対処の必要性を伝えるため、番外編として「感染症流行下の安全対策」を追加する増補版を公開しています。
https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html

（ウ）各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き　ブラジル」を作成し公開しています。
https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

（エ）各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開しています。在伯大使館の情報（令和 4 年度第 1 四半期）は以下のリンク先から。
https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

（４）ブラジル渡航情報

（ア）危険情報
最新更新日：2022 年 4 月 5 日
http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_259.html
以下の地域が「レベル１：十分注意してください。」となっています。
・ブラジリア連邦区

・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
・リオデジャネイロ州大リオ圏
・エスピリトサント州大ビトリア圏
・アマゾナス州大マナウス圏
・ロライマ州北部
・パラー州大ベレン圏
・ペルナンブーコ州大レシフェ圏
・バイーア州大サルバドール圏
・セアラ州大フォルタレーザ圏
・パラナ州大クリチバ圏
・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

（イ）安全対策基礎データ
最新更新日：2022 年 8 月 1 日
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html
　主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連絡先を公開しています。

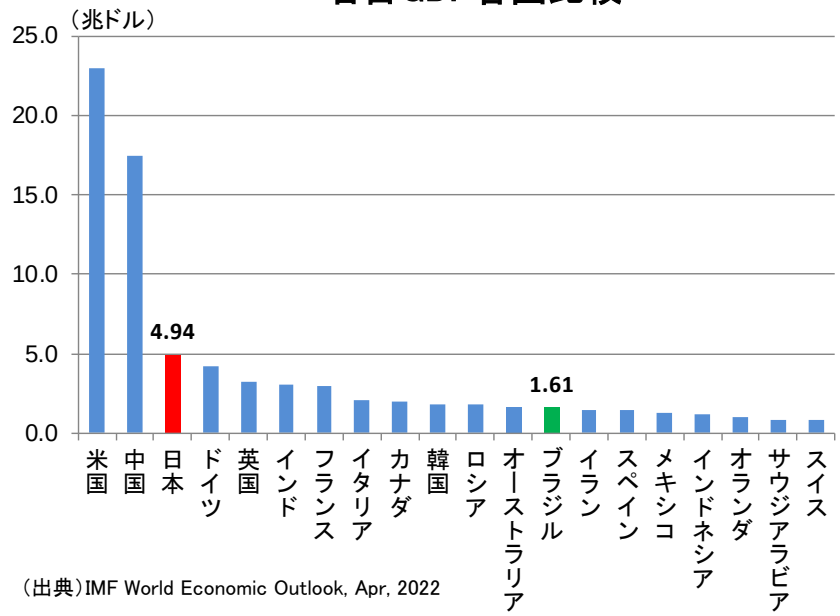
（ウ）テロ・誘拐情勢
最新更新日：2022 年 8 月 2 日
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

Ⅰ. 経済構造

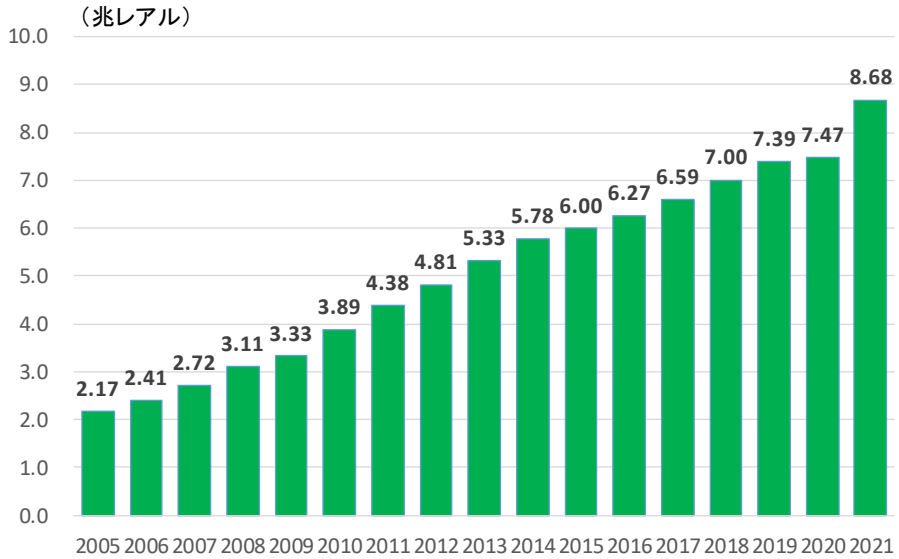
1. 人口約2億1,331万人、面積約851万km²（2021年）
2. 世界第13位の経済規模（名目GDP約1兆6,081億ドル（2021年）：日本の約33%）。一人当たりGDP（約7,564ドル（2021年））は、日本の約19%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産（GDP）額では第三次産業（サービス業）が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別でみると、家計消費や総固定資本形成（投資）といった内需が成長に寄与している。

名目GDP各国比較



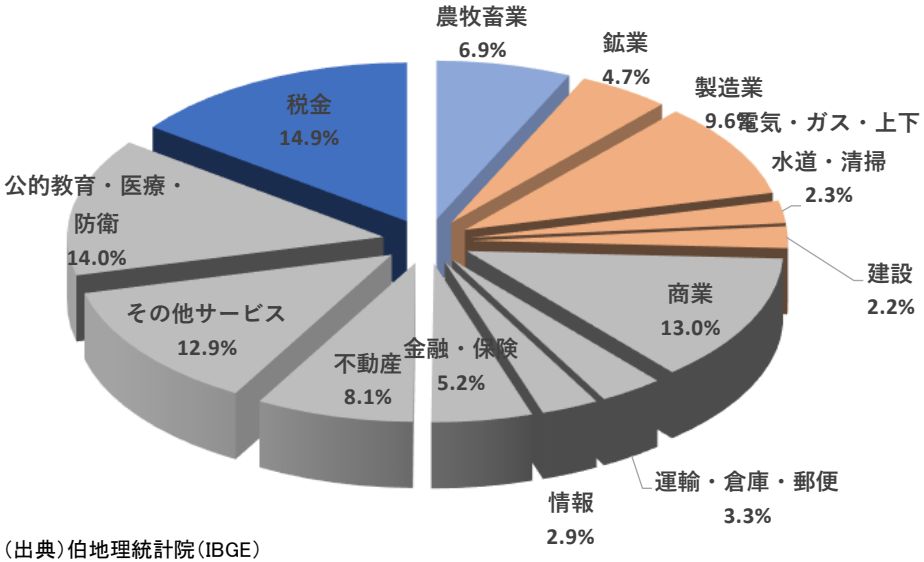
（出典）IMF World Economic Outlook, Apr, 2022

名目GDPの推移



（出典）伯地理統計院（IBGE）

名目GDPの産業別構成比（2021年）

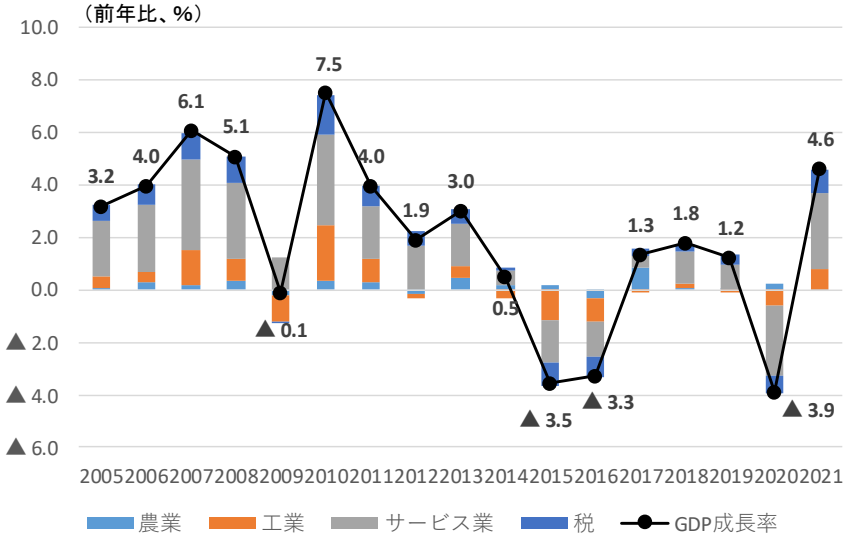


（出典）伯地理統計院（IBGE）

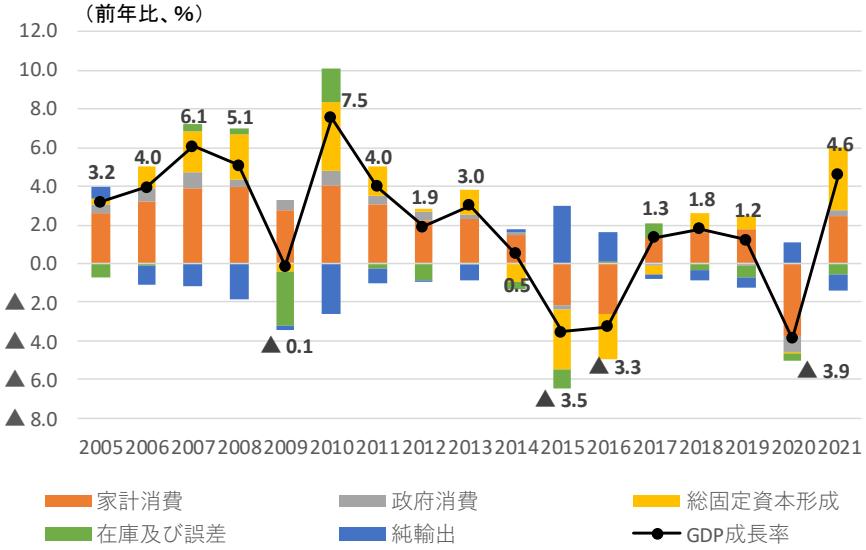
II. 経済の現状

ブラジル地理統計院（IBGE）が2022年9月に発表した2022年第2四半期の実質GDP成長率は、前期比+1.2%（4四半期連続のプラス）、前年同期比+3.2%（6四半期連続のプラス）となった。

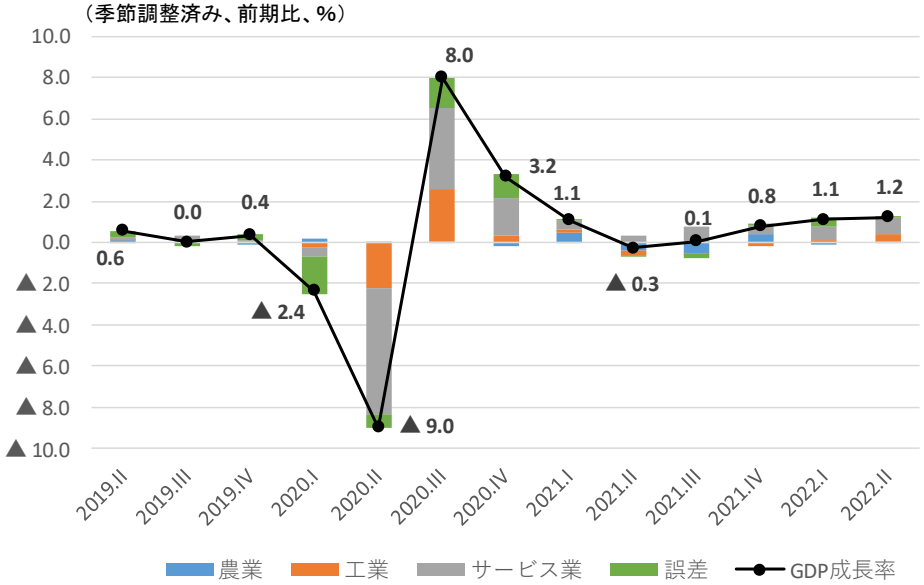
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（暦年）



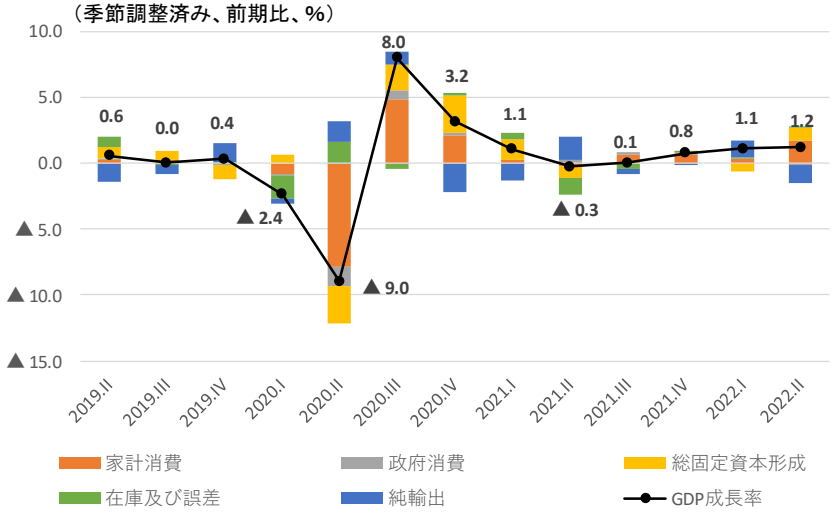
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（暦年）



実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（四半期）

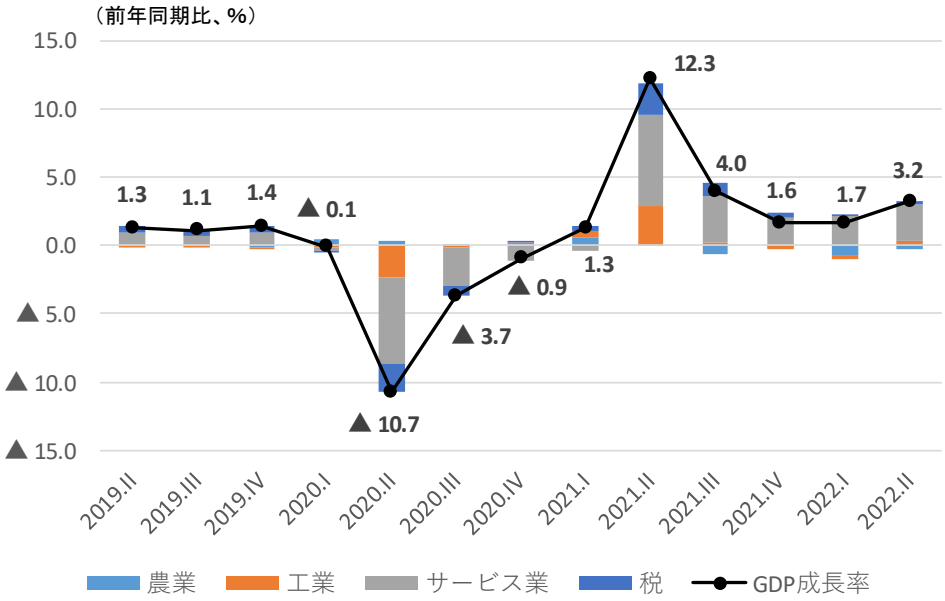


実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（四半期）

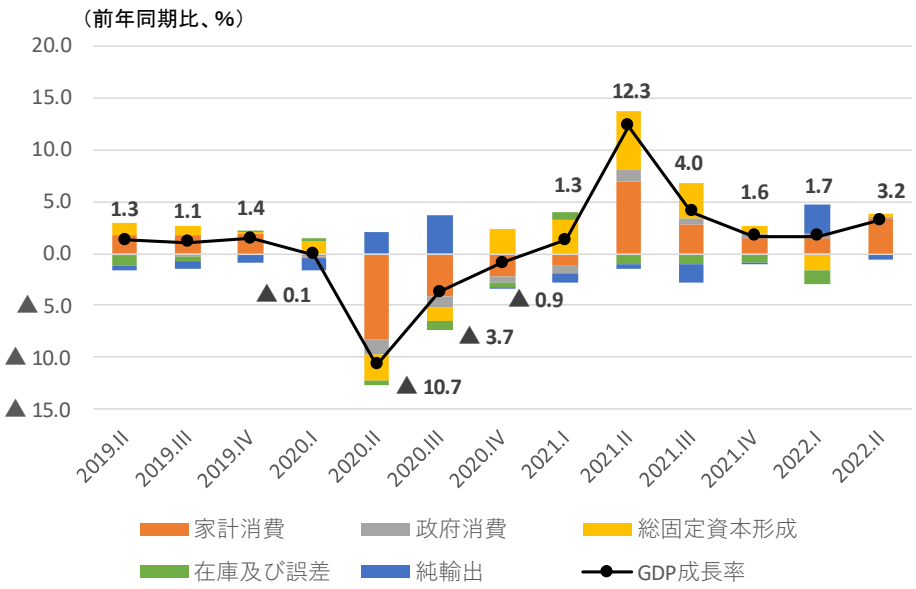


※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「誤差」、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除したもの。（出典）伯地理統計院（IBGE）

実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（四半期）



実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（四半期）



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除したもの。（出典）伯地理統計院（IBGE）

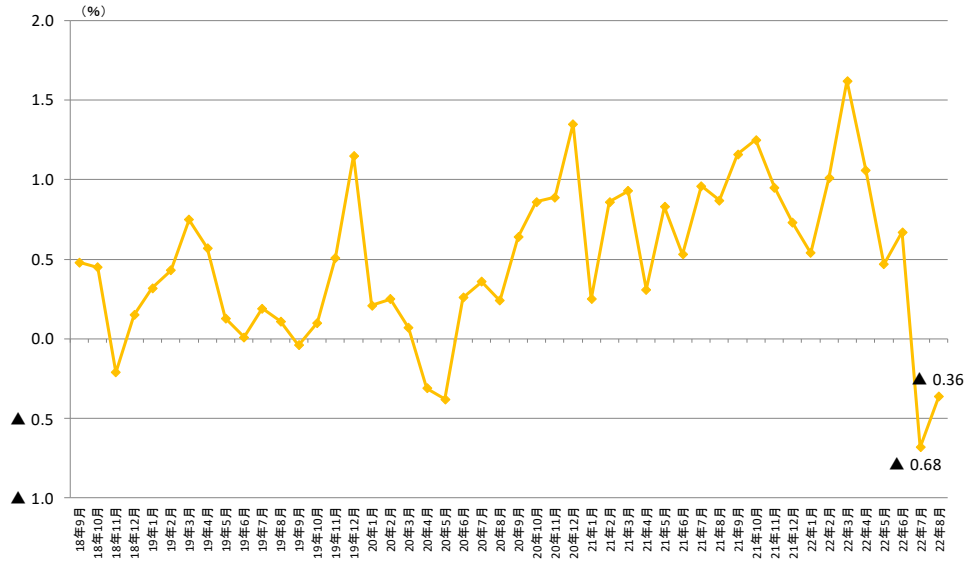
≪各機関によるGDP成長率見通し≫

	2022	2023
IMF （2022年7月）	+1.7%	+1.1%
伯経済省 （2022年9月）	+2.7%	2.5%
伯中銀 （2022年9月）	+2.7%	+1.0%
伯中銀Focus （2022年9月30日）	+2.70%	+0.53%

物価の動向

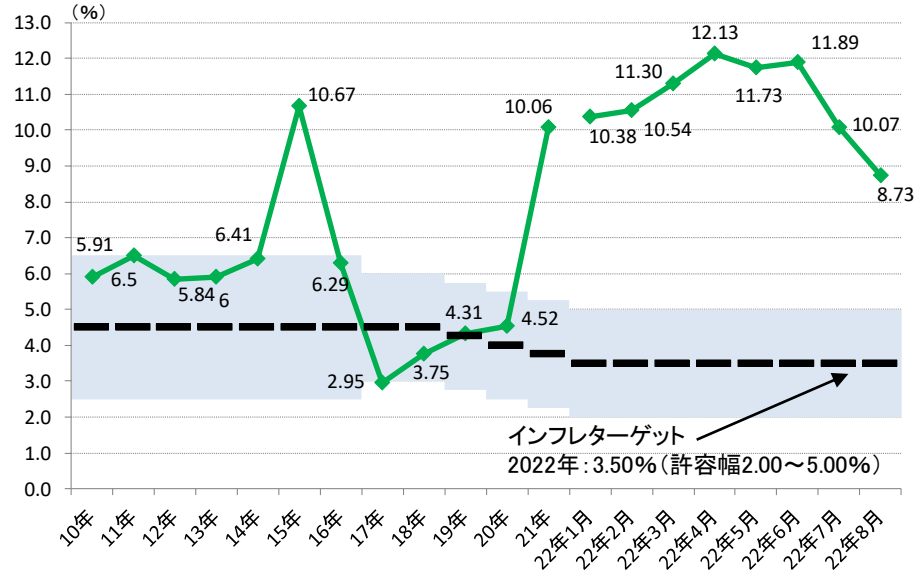
8月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比▲0.36%、直近12か月累計では8.73%となった。

拡大消費者物価指数（IPCA）上昇率の推移（各月）



（出典）伯地理統計院（IBGE）

拡大消費者物価指数（IPCA）上昇率の推移（12か月累計）

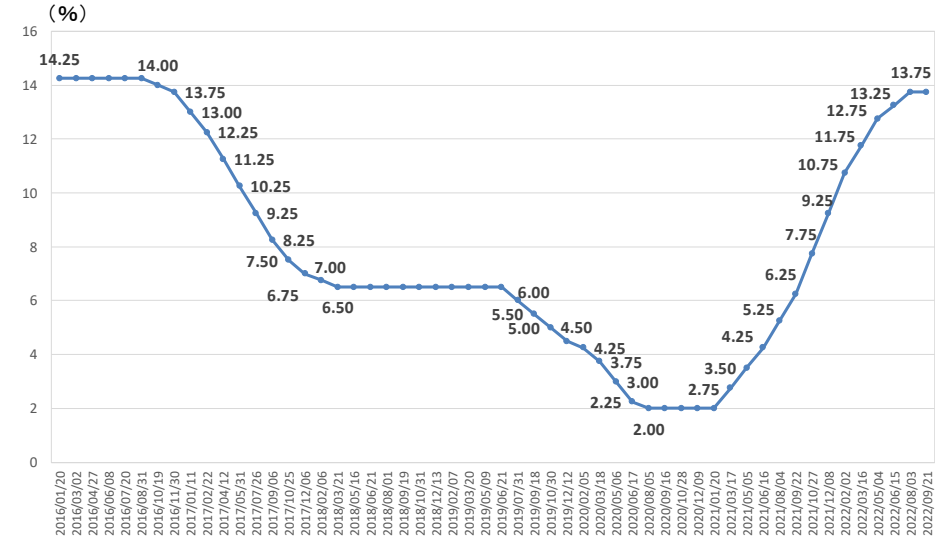


（出典）伯地理統計院（IBGE）

政策金利

9月20日及び21日に開催された伯中央銀行金融政策委員会（Copom）において、政策金利であるSelic金利を13.75%に据え置くことが決定された。伯中銀は2021年3月から前回2022年8月まで12会合連続で、政策金利の引上げを実施していた。次回会合は10月25日及び26日に開催予定。

政策金利の推移（2016年～）

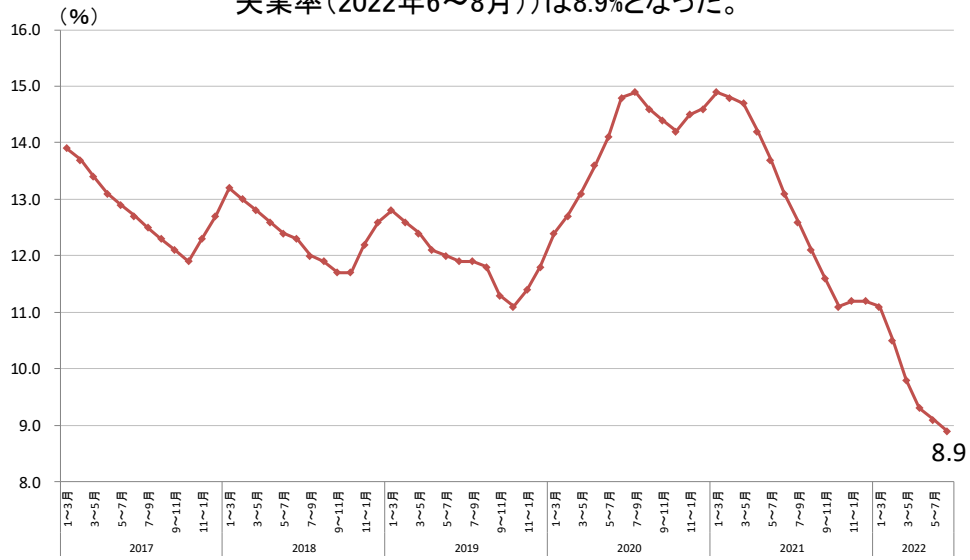


（出典）伯中央銀行

労働市場、消費、生産、財政収支の動向

失業率の推移（3か月移動平均）

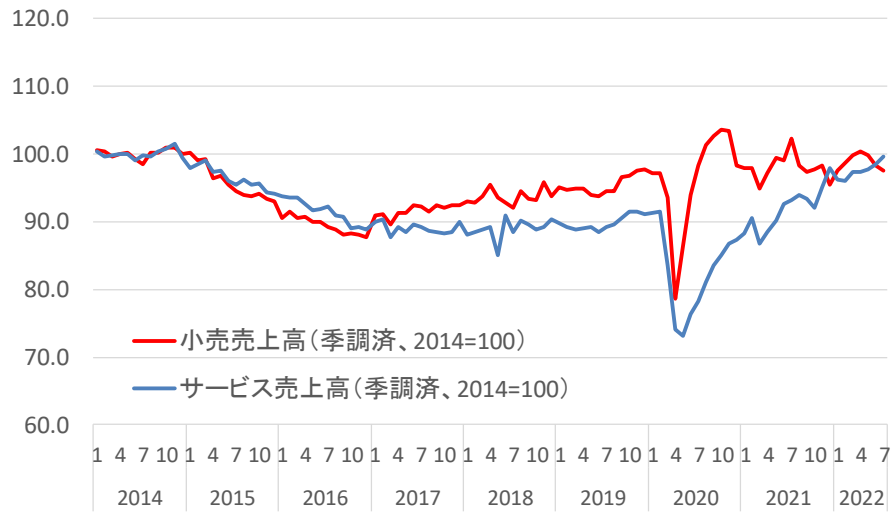
失業率（2022年6～8月））は8.9%となった。



（出典）伯地理統計院（IBGE）

小売・サービス売上高指数の推移（月次）

小売売上高（7月）は前月比▲0.8%、前年同月比▲5.2%となった。サービス売上高（7月）は前月比+1.1%、前年同月比+6.3%となった。



（出典）伯地理統計院（IBGE）

鉱工業生産指数の推移（月次）

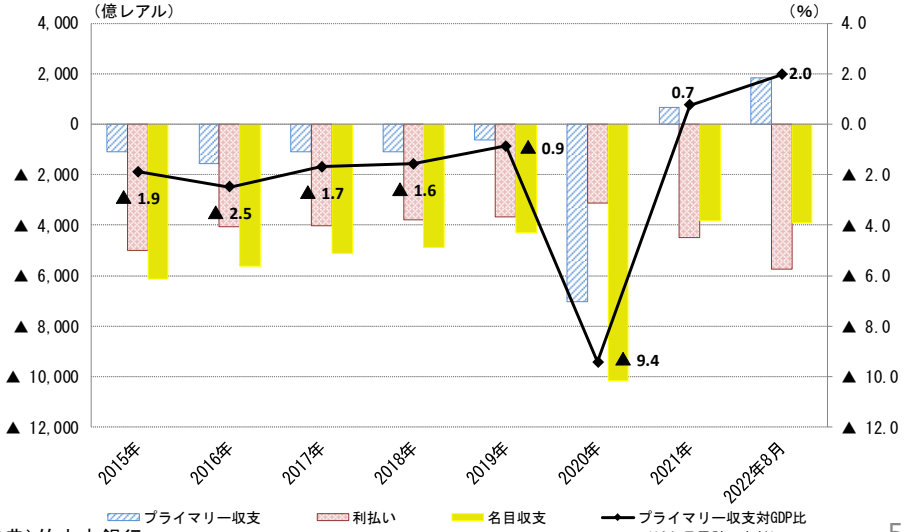
鉱工業生産（7月）は前月比+0.6%、前年同月比▲0.5%となった。

（2012年=100、季調済）

（出典）伯地理統計院（IBGE）

財政収支の推移（12か月累計）

公的部門の2022年8月のプライマリーバランスは1,835億レアルの黒字、利払いは▲5,756億レアル、名目収支は▲3,920億レアルとなった。



（出典）伯中央銀行

国際収支の動向

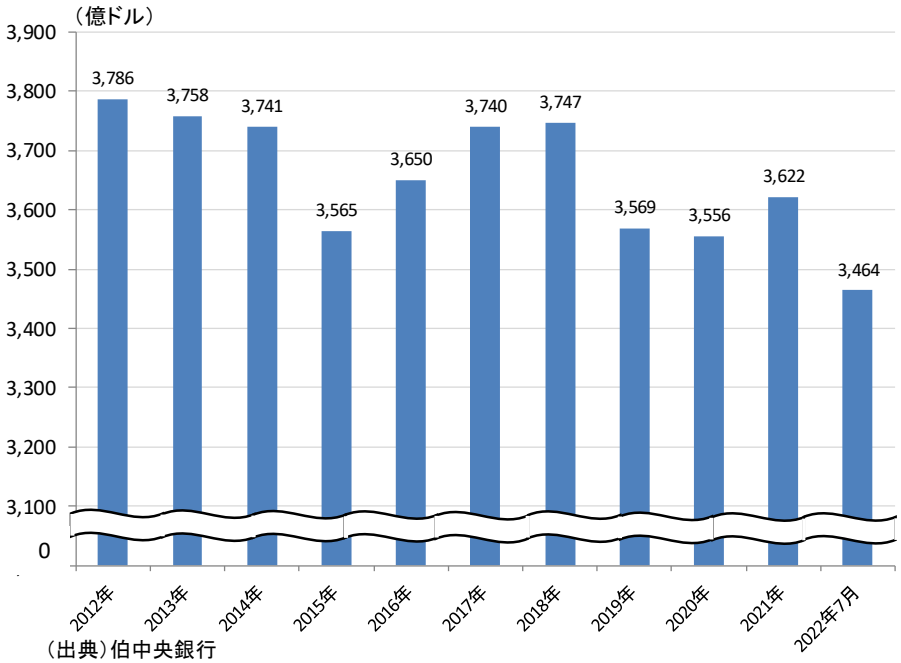
国際収支

（億ドル）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年7月
経常収支	▲ 220	▲ 515	▲ 650	▲ 245	▲ 279	▲ 184
貿易収支	573	434	265	324	364	301
サービス収支	▲ 383	▲ 360	▲ 355	▲ 209	▲ 171	▲ 154
第1次所得収支	▲ 432	▲ 588	▲ 573	▲ 383	▲ 505	▲ 354
第2次所得収支	21	▲ 0	12	23	33	23
資本移転収支	4	4	4	41	2	1
金融収支	▲ 171	▲ 523	▲ 644	▲ 125	▲ 337	▲ 190
直接投資	▲ 475	▲ 761	▲ 464	▲ 413	▲ 273	▲ 361
対外直接投資	213	20	228	▲ 35	192	165
対内直接投資	689	782	692	378	464	526
証券投資	177	69	192	129	▲ 57	57
金融派生商品	7	28	17	54	▲ 10	▲ 5
その他投資	69	113	▲ 128	247	▲ 137	88

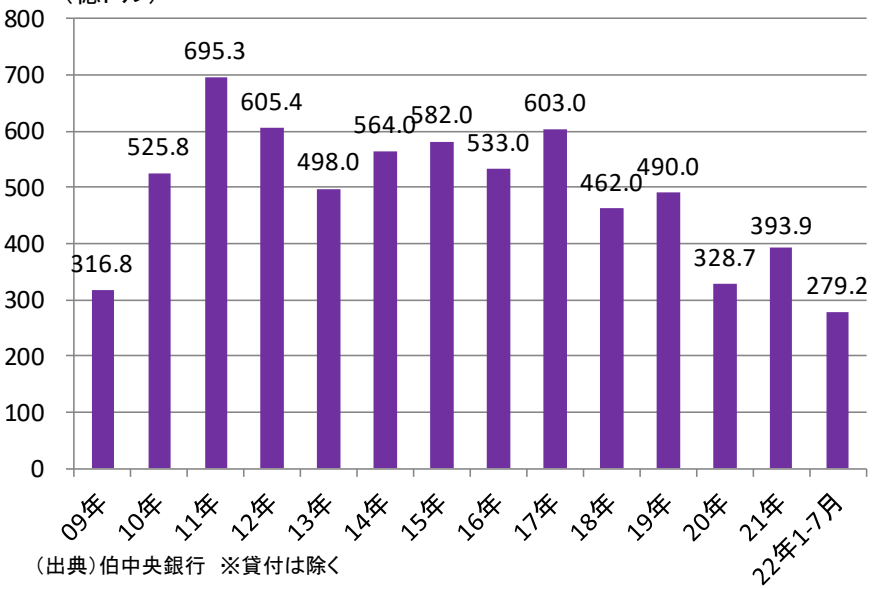
（出典）伯中央銀行

外貨準備高



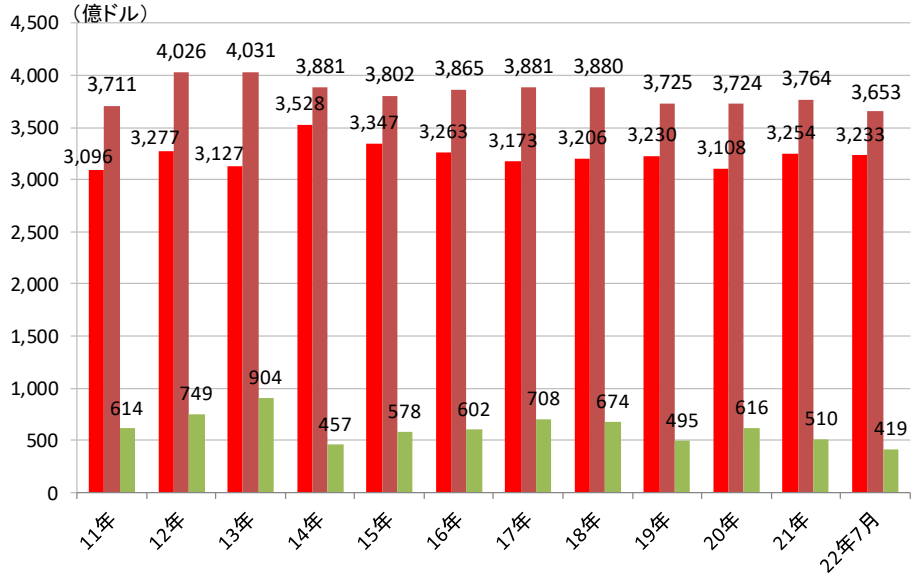
（出典）伯中央銀行

外国直接投資（資本参加分）流入額



（出典）伯中央銀行　※貸付は除く

対外債務・債権収支



（出典）伯中央銀行

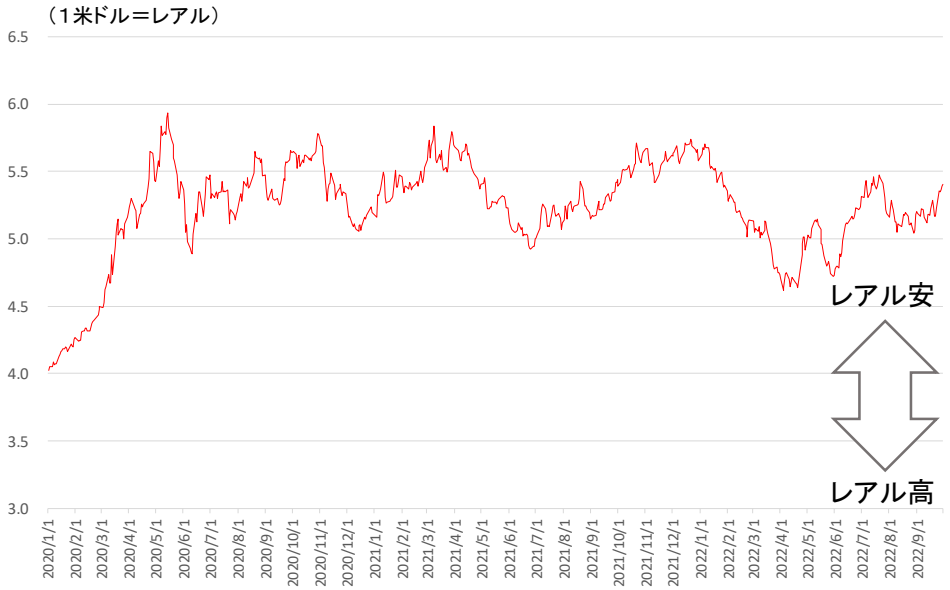
為替・株価の推移

9月の為替市場は5.12～5.41レアル/ドルで推移。

月の前半は5.12～5.22レアル／ドルで推移。米国の金融政策を巡る動向や世界経済の見通しの悪化の他、ブラジル国内での物価動向についての前向きな動向等を材料に、概ね横ばいで推移した。

月の後半は5.17～5.41レアル／ドルで推移。米国の金融政策や欧州経済を巡る動向の他、伯大統領選を巡る不確実性等を材料に概ね下落傾向で推移した。

為替の推移（対米ドル）



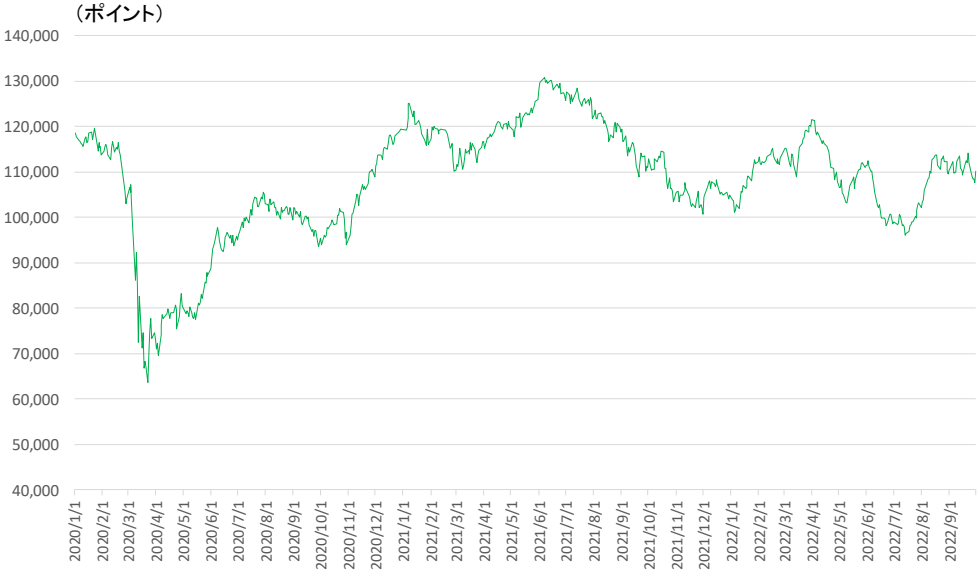
（出典）伯中央銀行

9月の株式市場は107,664～114,070ポイントで推移。

月の前半は109,764～113,407ポイントで推移。資源価格の動向や世界経済の動向等を材料に上下して推移した。

月の後半は107,664～114,070ポイントで推移。世界経済の見通しの悪化等を材料に概ね下落傾向で推移した。

株価指数（Ibovespa）の推移



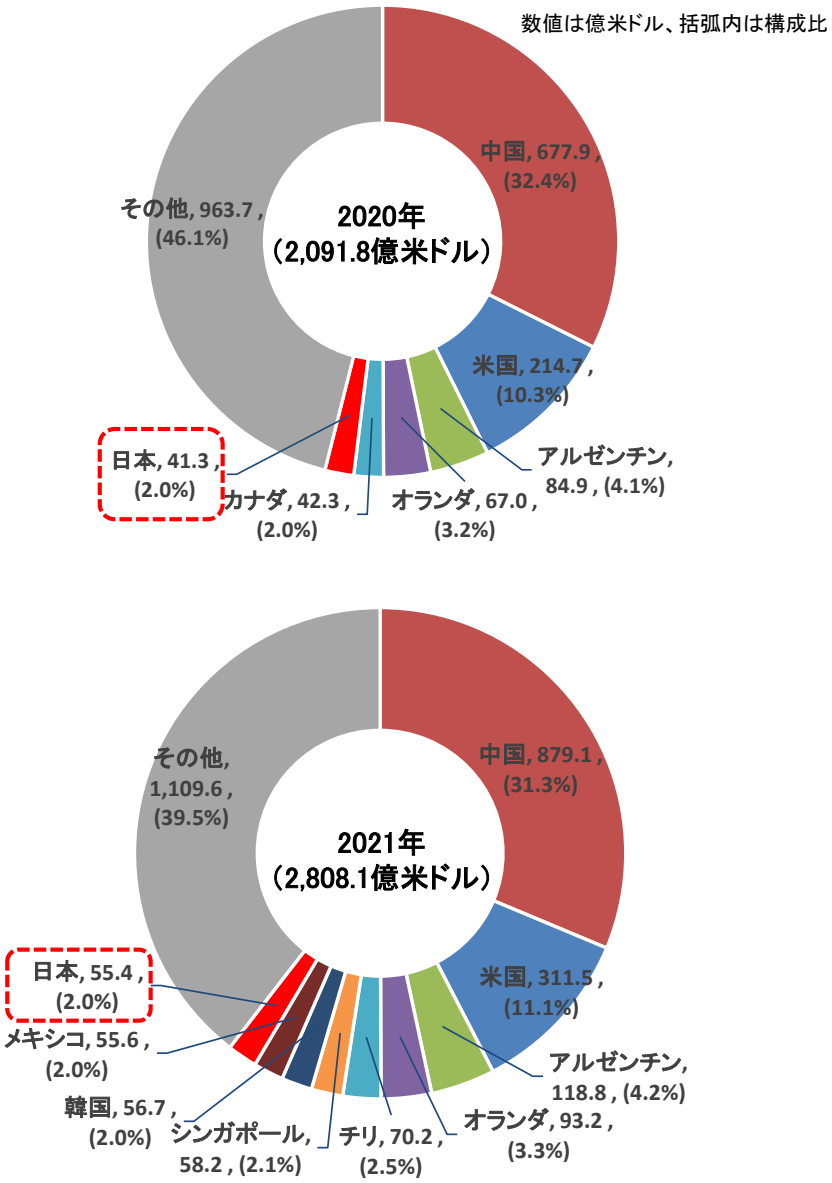
（出典）B3

Ⅲ. 貿易動向

ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2021年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入で8位となっている。

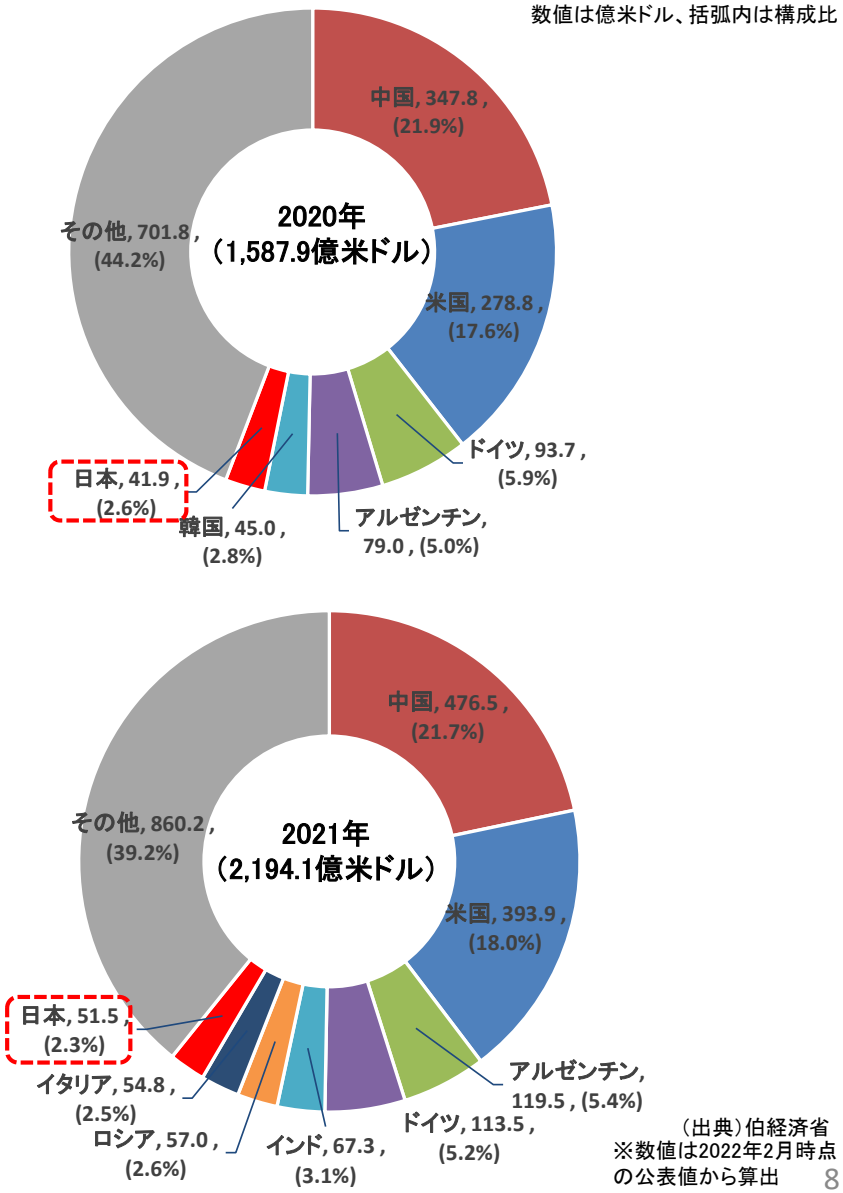
輸出額と構成比（国別）

数値は億米ドル、括弧内は構成比



輸入額と構成比（国別）

数値は億米ドル、括弧内は構成比

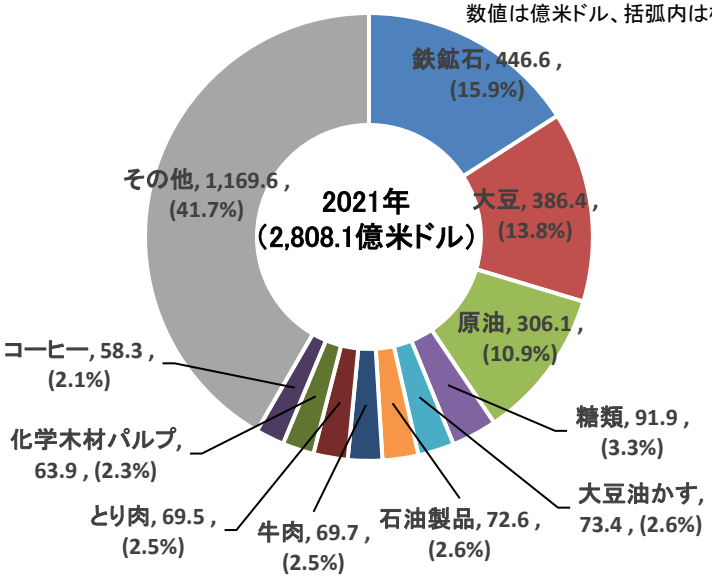


（出典）伯経済省
※数値は2022年2月時点の公表値から算出

主要輸出品目は資源（鉄鋼石、原油等）、食品（大豆、肉類、糖類等）。主要輸入品目は石油製品、自動車部分品を中心に、電気機器や医療用品など幅広い品目にわたっている。

ブラジルの主要輸出品目と主要相手国

数値は億米ドル、括弧内は構成比



【鉄鋼石】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	446.6	100.0
①	中国	288.4	64.6
②	マレーシア	28.6	6.4
③	バーレーン	17.9	4.0
④	日本	17.9	4.0
⑤	オマーン	13.0	2.9

【大豆】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	386.4	100.0
①	中国	272.1	70.4
②	スペイン	16.7	4.3
③	タイ	12.9	3.3
④	オランダ	12.0	3.1
⑤	トルコ	10.1	2.6

【原油】

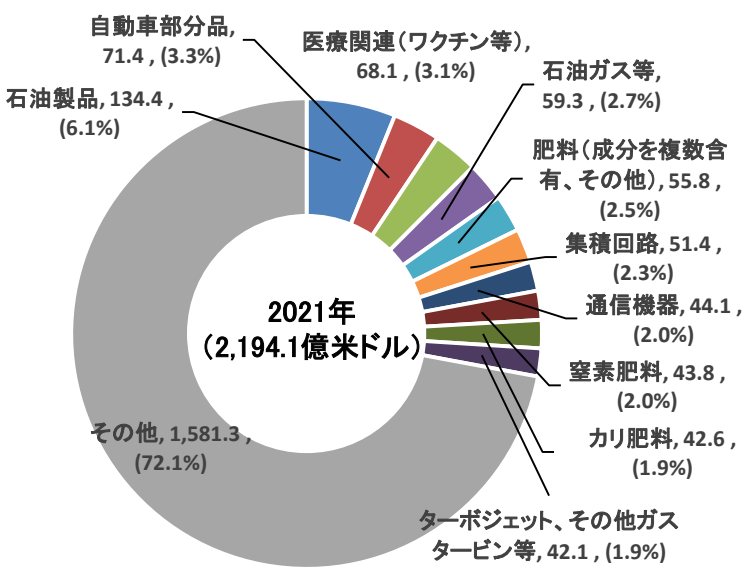
		億米ドル	構成比（%）
	全　体	306.1	100.0
①	中国	142.5	46.6
②	米国	30.8	10.1
③	インド	22.4	7.3
④	チリ	19.6	6.4
⑤	ポルトガル	16.3	5.3

【糖類】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	91.9	100.0
①	中国	14.1	15.4
②	アルジェリア	7.8	8.4
③	ナイジェリア	6.0	6.5
④	バングラデシュ	5.8	6.3
⑤	カナダ	4.4	4.8

ブラジルの主要輸入品目と主要相手国

数値は億米ドル、括弧内は構成比



【石油製品】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	134.4	100.0
①	米国	74.4	55.4
②	インド	13.5	10.1
③	UAE	7.3	5.4
④	オランダ	6.4	4.7
⑤	スペイン	4.5	3.4

【自動車部分品】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	71.4	100.0
①	日本	9.3	13.1
②	中国	8.8	12.3
③	ドイツ	8.5	11.8
④	メキシコ	6.3	8.8
⑤	米国	5.8	8.1

医療用品（ワクチン等）

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	68.1	100.0
①	米国	23.7	34.9
②	中国	12.9	19.0
③	ベルギー	7.8	11.4
④	スイス	5.3	7.8
⑤	ドイツ	4.1	6.0

【石油ガス等】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	59.3	100.0
①	米国	41.8	70.5
②	ボリビア	12.1	20.3
③	アルゼンチン	2.8	4.7
④	トリニダードトバゴ	1.5	2.5
⑤	アンゴラ	0.5	0.8

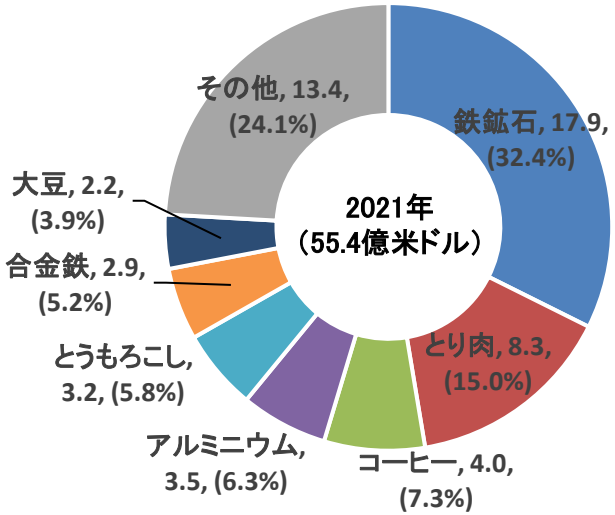
（出典）伯経済省　※数値は2022年2月時点の公表値から算出

対日貿易

対日貿易においては、主要輸出品目は資源（鉄鉱石、アルミニウム等）や食品（肉類、コーヒー、トウモロコシ、大豆等）、主要輸入品目は自動車関連が中心となっている。

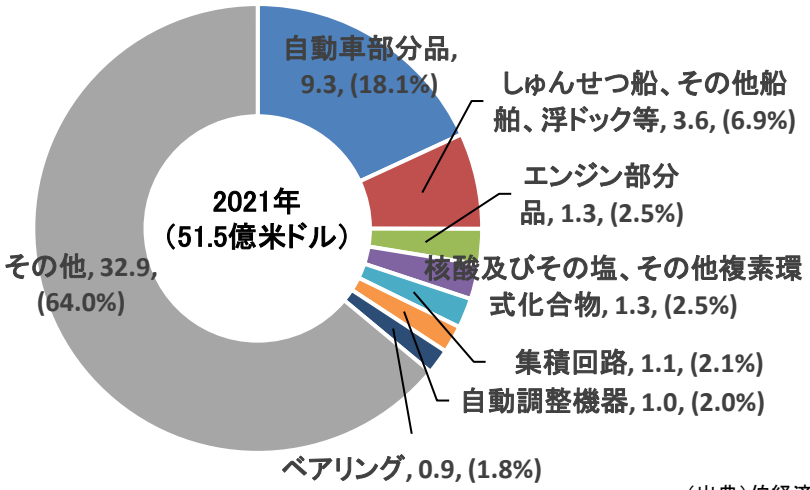
ブラジルの対日本主要輸出品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



ブラジルの対日本主要輸入品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



（出典）伯経済省
※数値は2022年2月時点の公表値から算出

ブラジルの対日本主要輸出品目の日本側から見たブラジルの構成比（2021年）

【鉄鉱石】

	億円	構成比（%）
総計	19,656.0	100.0
① オーストラリア	10,854.7	55.2
② ブラジル	5,592.5	28.5
③ カナダ	1,385.4	7.0
④ 南アフリカ共和国	715.1	3.6
⑤ アメリカ合衆国	275.9	1.4

【とり肉】

	億円	構成比（%）
総計	1,365.9	100.0
① ブラジル	889.5	65.1
② タイ	407.9	29.9
③ アメリカ合衆国	32.6	2.4
④ ハンガリー	15.9	1.2
⑤ フランス	10.6	0.8

【コーヒー】

	億円	構成比（%）
総計	1,447.3	100.0
① ブラジル	446.9	30.9
② コロンビア	228.8	15.8
③ ベトナム	200.7	13.9
④ グアテマラ	101.1	7.0
⑤ エチオピア	79.3	5.5

【アルミニウム】

	億円	構成比（%）
総計	6,836.6	100.0
① ロシア	1,357.5	19.9
② オーストラリア	1,120.3	16.4
③ アラブ首長国連邦	1,088.7	15.9
④ ニュージーランド	425.2	6.2
⑤ ブラジル	382.8	5.6

【とうもろこし】

	億円	構成比（%）
総計	5,199.6	100.0
① アメリカ合衆国	3,779.6	72.7
② ブラジル	738.9	14.2
③ アルゼンチン	416.2	8.0
④ 南アフリカ共和国	242.6	4.7
⑤ フランス	8.8	0.2

【合金鉄】

	億円	構成比（%）
総計	3,134.2	100.0
① カザフスタン	657.4	21.0
② 中華人民共和国	453.4	14.5
③ ロシア	396.0	12.6
④ ブラジル	339.6	10.8
⑤ 南アフリカ共和国	307.7	9.8

【大豆】

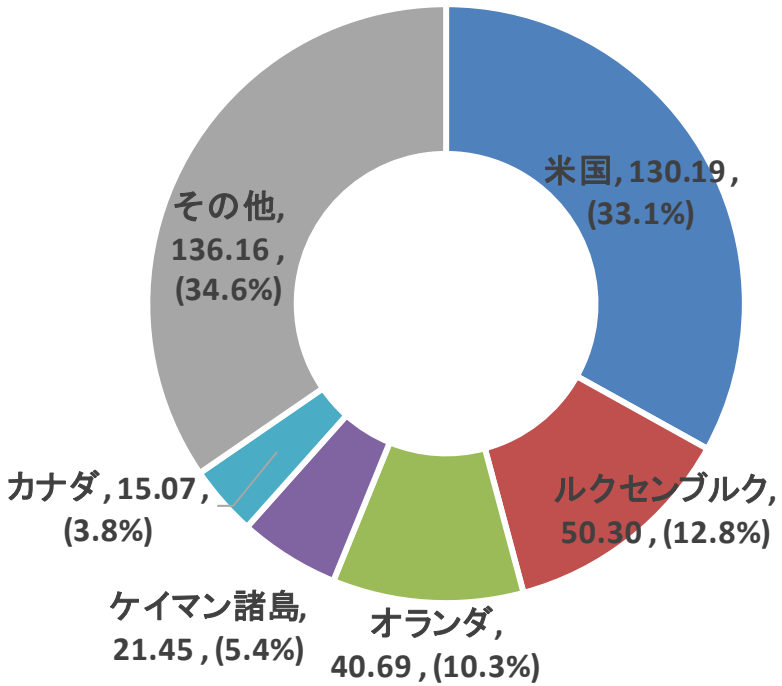
	億円	構成比（%）
総計	2276.9	100.0
① アメリカ合衆国	1702.9	74.8
② ブラジル	320.2	14.1
③ カナダ	226.0	9.9
④ 中華人民共和国	26.2	1.1
⑤ ロシア	1.5	0.1

※日伯ともにHS番号4桁の数値。鉄鉱石2601、とうもろこし1005、とり肉0207、コーヒー0901、アルミニウム7601、合金鉄（フェロアロイ）7202、大豆1201

（出典）財務省（日本）
※数値は2022年1月末時点の公表値から算出

対ブラジル直接投資（資本参加分）の国別構成比
総額393.86億ドル（2021年）

数値は億米ドル、括弧内は構成比

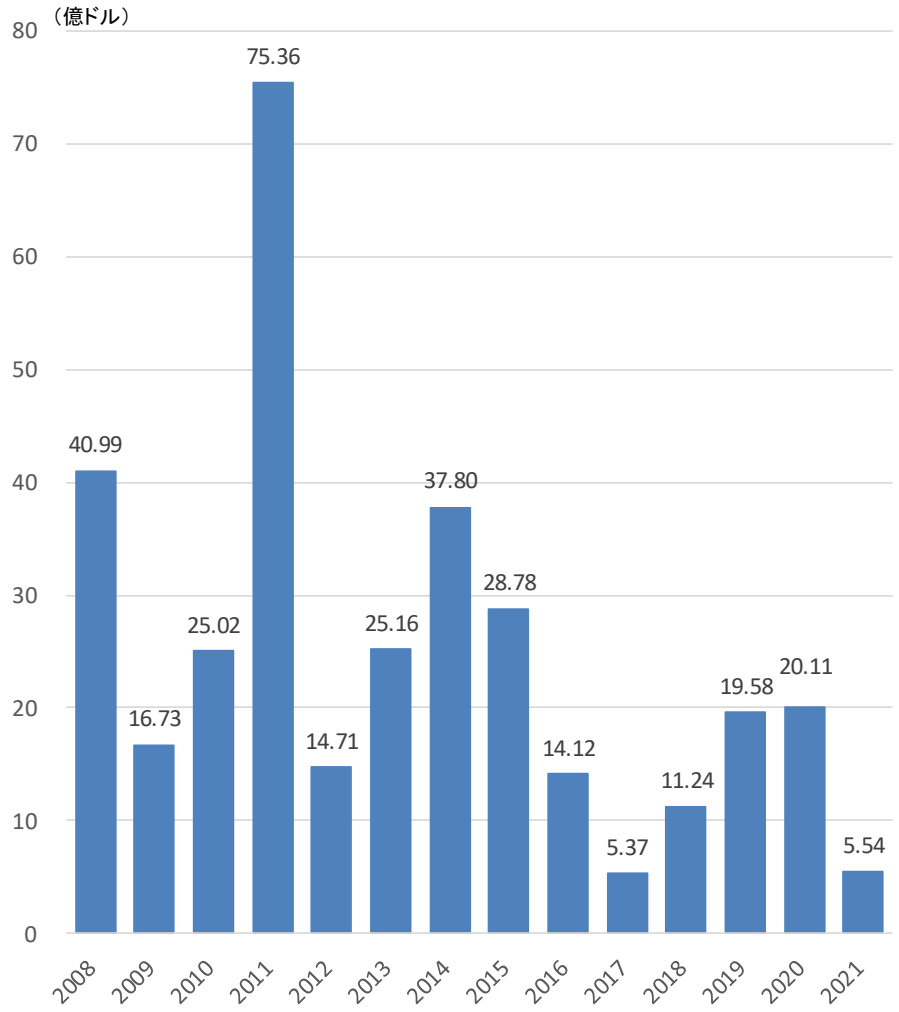


（出典）伯中央銀行

2021年の日本の直接投資額（資本参加分）は5.54億ドルで構成比は1.41%と、17番目の規模。

※ 中国：2.35億ドル（0.44%）。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資（資本参加分）の推移



（出典）伯中央銀行